

事業実績（研修）報告

1. 研修の概要

- (1) 目的 第80回 全国都市問題会議
- (2) 日時 平成30年10月11日(木) 9:30~17:00
10月12日(金) 9:30~11:50
- (3) 場所 長岡市 シティホールプラザ アオーレ長岡
- (4) 参加者 大塚久美子



(アオーレ長岡前)

2. 研修内容

(開催日程)

第1日目 10月11日(木)

9:30

開会式

開会挨拶	全国市長会会長	相葉市長	立谷秀清
開催市市長挨拶		新潟県長岡市長	磯田達伸
来賓祝辞		新潟県知事	花角英世

9:50

基調講演

地方分権へのまなざし 東京大学史料編纂所教授 本郷和人

11:00

主報告

長岡市の市民協働 新潟県長岡市長 磯田達伸

13:10

一般報告

市民との対話と連携で進める津市の公共施設マネジメント 三重県津市長 前葉泰幸

14:40

一般報告

場所の時代 建築家・東京大学教授 隈研吾
アオーレ長岡の発注者として 筑波大学客員教授 森民夫
アオーレ長岡での市民協働の実践 アートディレクター 森本千絵

17:00 終了

第2日 10月12日(金)

9:30

パネルディスカッション

テーマ : 市民協働による公共の拠点づくり
コーディネーター : 明治大学政治経済学部地域行政学科長・教授 牛山久仁彦
パネリスト : 東京理科大学理工学部建築学科教授 伊藤香織
NPO法人子育てひろば全国連絡協議会理事長 奥山千鶴子
長岡市国際交流センター「地球広場」センター長 羽賀友信
埼玉県和光市長 松本武洋
高知県須崎市長 楠瀬耕作

閉会式

次期開催市市長挨拶 鹿児島県霧島市長 中重真一
閉会挨拶 日本都市センター理事長 高松市長 大西秀人

3. 所感

10月11日、12日の2日間、長岡市のシティーホールプラザ アオーレ長岡において、「市民協働による公共の拠点づくり」をテーマに、後藤・安田記念東京都市研究所、日本都市センター及び長岡市との共催により約2,000名の参加者を得て開催された。

会議の開催場所となった「アオーレ長岡」は、設計の段階から竣工後の事業企画運営に至るまで、市民の積極的な参加があり、現在は、市民の交流施設として、行政の枠組みを超えた市民協働の活動拠点となっているようである。用途を市民と協議しながら作り上げるという視点と、「場」の持つ力が最大限に活用されている成功事例だと考える。建築を請け負ったのは、隈研吾氏。誰もが立ち入りやすく自由に利用しやすい空間を作り、「土間」の考え方を入れた複合施設として、雪の冬でもイベントができる素晴らしい建物であった。

1日目は、東京大学史料編纂所教授 本郷和人氏による「地方分権へのまなざし」の基調講演。世界でも特異な地域特性から政治、行政を発展、変化させてきた興味深い話であった。歴史の話「黒船」が生み出した「明治維新における中央集権化」を、現在に至るまで置き換えると、黒船に当たる「人口減少」は、「地方の自治権を強化する地方分権より新しい日本を作っていくのではないかと歴史から導き出すことができる大変説得力のある講演であった。その後、磯田達伸長岡市長より「長岡市の市民協働について」、三重県前葉泰幸津市長より「市民との対話と連携で進める津市の公共施設マネジメント」、隈研吾氏からは、「場所の時代」について報告。具体的事例を取り上げた報告は、大変興味深いものであった。長岡市長の後には、講堂内で長岡花火のプロジェクションマッピングの披露があり、建物と融合した素晴らしい演出に、本物の花火はどれほど魅了されるのかと思わされた。

2日目は、「パネルディスカッション」。パネラーの東京理科大学理工学部 伊藤教授より、「シビックプライド（都市に対する市民の誇り）」の歴史的背景を伺い、英国でこの考え方が生まれた背景は、産業革命が進み労働者の流入から多様な人々が「コミュニティポイン

ト」としての「公共建築物」を街の誇り、象徴として都市基盤を作り、市民協働のまちづくりの拠点としていったとのことである。シビックプライド醸成のコミュニケーションポイントから考える拠点や子育てからの拠点づくり、地域包括ケアを支える拠点づくりなど、あらゆる観点からの市民協働による拠点づくりについて話が聞けたことは、大いに参考となった。本市においても参考になる部分があり、活かしていきたい。

収支報告

項目	支出金額	備考
研修費	85,830円	参加費 10,000円 旅費 75,830円
合計	85,830円	